

令和5年度 学校研究

酒田市立富士見小学校

学び合い、共に高め合う子どもの育成

～特別活動における「話し合い」を通して～（2年次）

1 主題設定の理由

（1）児童の実態から

昨年度は、学級活動（1）（3）の授業実践を重点とした。話し合い活動を取り入れ、児童一人ひとりが自分の考えを持ち、他者の多様な意見に触れて考えを広げることを目指した。

特に学級活動（1）では、学級会を各学級で継続して行うことができた。児童が自ら議題を考え、話し合いにおいて賛成意見や心配意見を積極的に話すことができた。聞き手はあいづちやうなずき等で反応し、友達の意見を積極的に取り入れ、考えを深めた。学級会を進める計画委員会は、話し合いをスムーズに進め、マグネット等を用いて分かりやすく意見を視覚化した。また、研究を進める中で、教師の支援の重要性も明らかになってきた。話し合いの論点がずれないように道筋を修正したり、議題やめあての意味を意識させて、何のために話し合うかを児童に考えさせたりすることが大切であることがわかった。

課題として、合意形成の難しさが挙げられた。複数の意見に対して、マグネットの数だけで意見を一つにまとめていたり、他者の意見に納得がいけない児童がいる中で話し合いが終わってしまったりすることもある。様々な意見がある中で、考えを合体させたり、新しい考えを生み出したりして、全員が納得のいく結果になるにはどうしたらよいかを考える必要がある。

さらに、自己有用感を高めていく方法も引き続き研究していく必要がある。本校独自のアンケート調査によると、「学校の人から認められることがある」に対して「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と答えた児童は約6割にとどまっている。「学校の人から頼られていると思う」に対しても、同様に6割程度である。一方で、「わたしは、人の役に立つ人間になりたいと思う」に対しては、約9割の児童が「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と答えている。この調査結果から、「自分は役に立ちたい」「感謝されたい」などの自己有用感を得たいと感じている児童が多くいる一方、児童が他者に貢献する機会や、他者から承認される機会が少ないということが可能性として示唆される。

こうしたことを踏まえ、児童が主体的に話し合い、集団で活発な意見交換をしていく「学び合い」の力や、学級や一人ひとりの課題に対し、みんなで解決を目指したり、お互いに認め合う「高め合う」力が本校の児童に必要であると考えられる。

（2）本校の教育目標から

本校は、「みずから（自立）なかよく（共生）たくましく（たくましさ）」を教育目標として、「自分で考えて、行動する子どもの育成」を目指している。

自分で考えて行動するための生活支援として、やらされる活動から「自発的・自治的活動」への転

換が必要と考える。子どもに自己決定の機会をもたせて意欲を育てるとともに、自己有用感を高める手立ても考えることが大切である。

また、「なかよく」の重点としている「地域に貢献する体験活動・ボランティア活動」や、「多様性を尊重する態度を形成する教育活動」も推進していく必要がある。

こうしたことから、特別活動を充実させ、多様な他者と協働して自分たちの学校・学級をよりよくしていこうとする活動が学校教育目標達成の手立てとなる。

(3) 学習指導要領から

学習指導要領前文には、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」と示されている。また、児童の資質能力（知識及び技能・思考力、判断力、表現力・学びに向かう力、人間性等）の育成を目標として示している。そのためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められ、さらなる授業改善が必要とされている。

特別活動においては、児童同士の話し合い活動や、自主的、実践的に活動することが特質である。児童が自分から課題を見だし、生活上の課題を解決するために対話的に学び、合意形成や意思決定をしていくことがねらいとなる。また、多様な他者と対話しながら協働して自分の考えを広げたり、自分のよさやがんばりに気づき、自己肯定感を高めたりすることも示されている（学習指導要領解説特別活動編）。

2 研究主題について

(1) 「学び合い」

本校では、「学び合い」とは児童同士がかかわり合い、お互いの意見を聴くことで、自分の考えを深め、協働して様々な問題を解決していく一連の学習活動と捉えている。決めたことを実践し、児童同士で振り返ったり、自己評価をしたりして、次のステップに進んでいくことが大切である。

(2) 「共に高め合う」

本校では、「共に高め合う」とは自分と異なる他者の意見を理解し受け入れたり、お互いのよいところに気づいたりして、尊重し認め合う姿と捉えている。また、自分の持っているよさや可能性を伸ばしたり、個性を生かしたりして、お互いに成長していく姿と考えている。

3 研究内容

学級活動の内容は(1)(2)(3)があるが、学校研究として(1)を重点とする。

学級や学校における生活をよりよくするための課題を児童自ら見だし、計画委員会を中心に学級会を行う。全員参加の学級会で話し合い、合意形成し、課題解決をする。そして、決まったことはみんなで協力し実践できるよう、教師が働きかける。

このような一連の活動（事前の活動・学級会・事後の実践）において、児童の自己有用感を高める手立てを考え、学級会での話し合いの工夫について検討していく。

※ 学習指導要領第6章の第2の〔学級活動〕の2「内容」で、次のように示している。

「学級活動(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校に置ける生活上の諸問題の解決

イ 学級内の組織作りや役割の自覚

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

学級活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」

4 研究の視点

① 必要感のある議題や題材の選定

児童が自分たちの学級・学校の生活をよりよくすることや、学級内の組織作りや役割に自覚的、主体的になるためには、必要感のある議題や題材の選定が不可欠である。自分事として学級への参加を促すための手立てや工夫を模索していきたい。

また、学級の課題や話し合いの題材を議題ポストだけでなく、学級目標の振り返りを通して選定するなど課題意識を持たせる具体的手立てを考えていく必要がある。

○学級会の議題例

- ・どうぞよろしくの会を開こう
- ・学級の係を決めよう
- ・1学期がんばったね会をしよう
- ・ボールの使い方を見直そう
- ・1年生と交流会をしよう
- ・係活動発表会をしよう
- ・〇年生さよならパーティーを開こう

② 全ての子が納得感を得られる合意形成を目指す工夫

本校では、全学級共通の「学級会マニュアル」を作成し学級会を進めてきた。このマニュアルは、みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編」（国立教育政策研究所）の流れをもとに作成したものである。昨年度、全ての学級でマニュアルの通りに学級会が進行できるようになってきた。今年度はさらなるレベルアップを目指して、話し合いを通して全ての子が納得感を得られる合意形成を目指すこととした。できるだけ多くの意見の良い点をいかす方法はないか考え、工夫させていきたい。

○納得感を得られる合意形成の工夫例

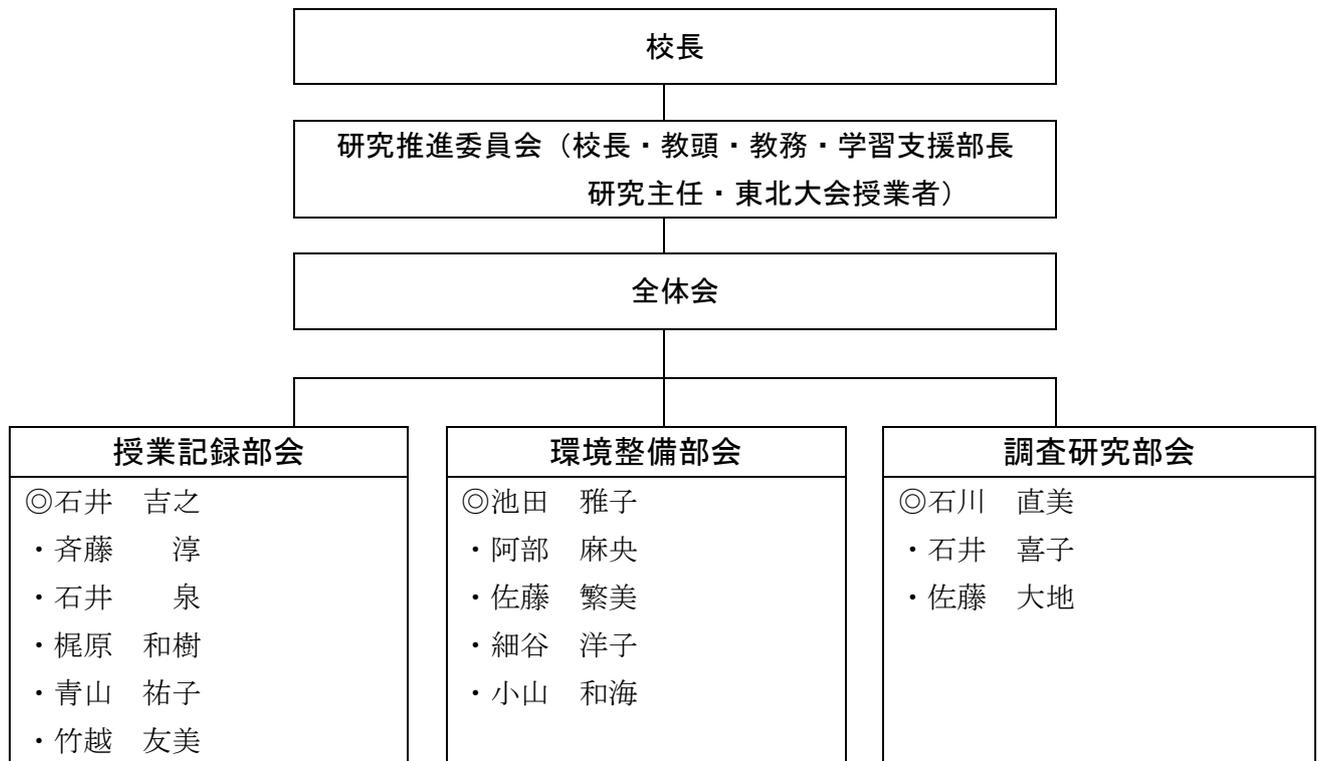
- ・目的に立ち返る。
- ・いろいろな意見のよさを生かす。
- ・いくつかの考えをもとに新しい考えをつくる。
- ・複数の意見を組み合わせる。
- ・少しずつ全部行う。
- ・優先順位を決める。

- ・条件を付ける。
- ・少数意見をいかす工夫を考える。
- ・更なる改善策を出し合う。

5 研究の年次計画

年次	内容
令和4年度 (1年次) 授業実践	◎学級会の「富士見スタイル」の確立と見直し ○「目的」にせまるための話し合いの検証 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態調査・課題の把握 ・事後の活動の工夫
令和5年度 (2年次) 研究のまとめ	◎必要感のある議題や題材の選定 ○全ての子が納得感を得られる合意形成を目指す工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践と改善 ・児童の「決めたことを実践する」力の育成

6 研究組織



○全体会

- ・研究の具体的な進め方や、授業について協議し、共通理解を図る。

○研究推進委員会（校長・教頭・教務主任・学習支援部）

- ・学校研究推進のための企画・立案を行う。
- ・授業実践に活かすための基礎資料を作成する。
- ・実践内容や資料を整理・保管する。

○部会

- ・授業記録部会…事前・事後研の記録や、研究授業の写真撮影等を行う。
- ・環境整備部会…特別活動（児童会活動やクラブ活動、学校行事など）の掲示を充実させる。
- ・調査研究部会…児童の実態を調査するアンケートを作成、集計や分析等を行う。

7 研究日程

日にち	内容	
4月26日(水)	全体会①	研究の概要について
6月14日(水)	事前研①	授業研①②について
6月26日(月)	授業研①	(2年1組)(6年1組) (4年1組)(4年2組)
7月10日(月)	授業研② (特活東北大会プレ大会)	(2年2組)(6年2組)
10月25日(水)	事前研②	授業研③④について
11月1日(水)	授業研③	(2年1組)(6年1組) (3年1組)(3年2組)
11月17日(金)	授業研④ (特活東北大会)	(2年2組)(6年2組)
11月27日(月)	事前研③	授業研⑤について
12月6日(水)	授業研⑤	(1年1組)(1年2組) (5年1組)(5年2組)
1月22日(月)	全体会②	研究のまとめ

(1) 授業研究会

- ・全学級が学級活動の授業を提案する。学級活動(1)を行う。
- ・上記の研究日程に示している東北大会プレ大会(7月)、東北大会(11月)前の授業研は同学年とし、同じ内容の授業を行う。2回目の授業は、1回目の授業を踏まえて改善を図って臨む。
- ・提案授業の前には事前研究会を設定し、課題の明確化を図る。グループをつくり、提案授業を検討する。
- ・提案授業の後には事後研究会を設定し、成果と課題の共有化を図る。
- ・授業研究会における役割分担を事前に行う。

8 指導案について

第〇学年〇組 学級活動（1）指導案

令和〇年〇〇月〇〇日（〇）〇校時

指導者 〇〇 〇〇

1 議題 〇〇〇

2 ねらい

(1) 〇〇〇

(知識・技能)

(2) 〇〇〇

(思考・判断・表現)

(3) 〇〇〇

(主体的に取り組む態度)

3 指導にあたって

(1) 児童について (男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名)
〇〇〇〇〇〇

(2) 視点について

【視点1】必要感のある議題や題材の選定

【視点2】全ての子が納得感を得られる合意形成を目指す工夫

4 評価規準

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準			

5 活動の見通し

段階	日時	活動内容	指導・支援	評価 (観点)【評価方法】
話し合い の準備				
話し合い				
実践準備				
実践				
振り返り				

5 本時の展開

①児童の活動計画

②教師の活動計画

話し合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿と評価 (観点)【評価方法】
1 始めの言葉		
2 役わりの紹介		
3 議題、提案理由		
4 話し合いのめあて		
5 話し合いの進め方 の確かめ		
6 話し合い ① ②		
7 決まったことの発 表		
8 感想発表		
9 先生の話		
10 終わりの言葉		

9 研究のまとめ

- ・公開した授業の指導案
- ・事後研究会での協議
- ・教師のリフレクションシート
- ・児童へのアンケート調査（事前・事後）

R5年度学校研究構想図（案）

